「日々の理科」（第 522 号） 2015（H27),12,-9

「アイヌ語の地名に学ぶ（６）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

アイヌ語の地名解の研究をする上で、どうしても必要な本が２冊ある。「地名アイヌ語小辞典」（知里 真志保著）と「アイヌ語辞典」（萱野 茂著）である。いずれも、アイヌ語地名研究のバイブル的な存在である。幸い私は両方とも手元にある。萱野　茂氏は、アイヌ民族初の国会議員で、国会答弁でアイヌ語を使った、唯一の人物として知られる。

「石狩々布（いしかりかりっぷ)」という、珍妙な、しかしアイヌ語らしい、詩情豊かな響きを持った地名も、これらの辞典で調べると、ちがった解釈ができる。

他の地名との比較でも、最初の「イ」（i-）は、「その」という解で間違いない。「イ」は省略しても良く、実際にそういう地名もある。（然別　シカリ・ペッ「回流する・川」）最後の「プ」は、「ペッ pet＝川」がなまったものに、ほぼ間違いないだろう。

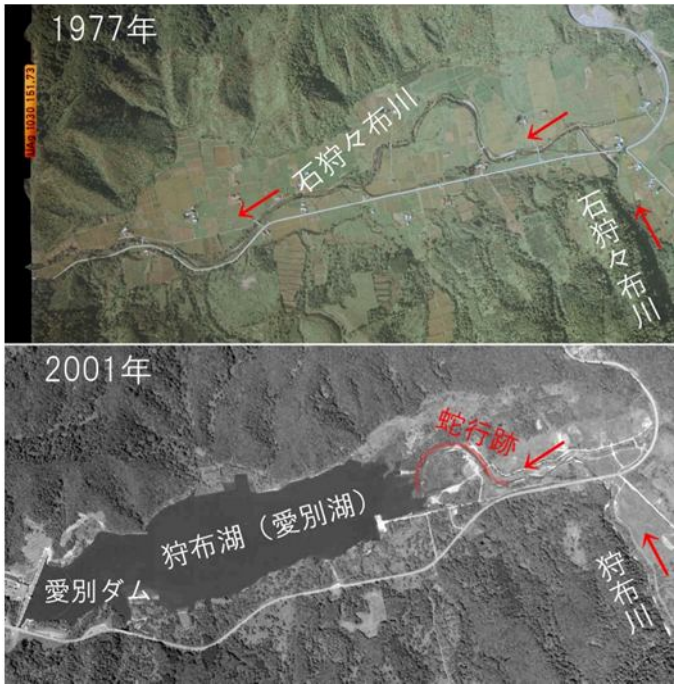
残った文字列が「シカリカリ」である。こんな変な語彙は、さすがのアイヌ語にも、なさそうな気がした。しかし、萱野氏の書の中にあった！

「シカリカリ si-kari-kari」＝ぐるぐる回る

まさに探していた解である。石狩々布（いしかりかりっぷ）は、「石狩」を冠しているので、「石狩川の～」と解釈したくなるが、実はちがう。この川特有の流路の特徴を表した地名だと、私は解釈した。

地名：石狩々布（いしかりかりっぷ）
本来のアイヌ語音；「イ・シカリカリ・ペッ」
地名解（田中）；「その・ぐるぐる回る・川」

現在の川は、愛別ダムでできた「狩布湖」によって主要部が水没している。しかし、過去の航空写真を見ると、蛇行が激しい川とわかる。この形状は、まさに「シカリカリ」である。ダムによって、蛇行部が消え、名称も「狩布川」に変更になったのだろう。

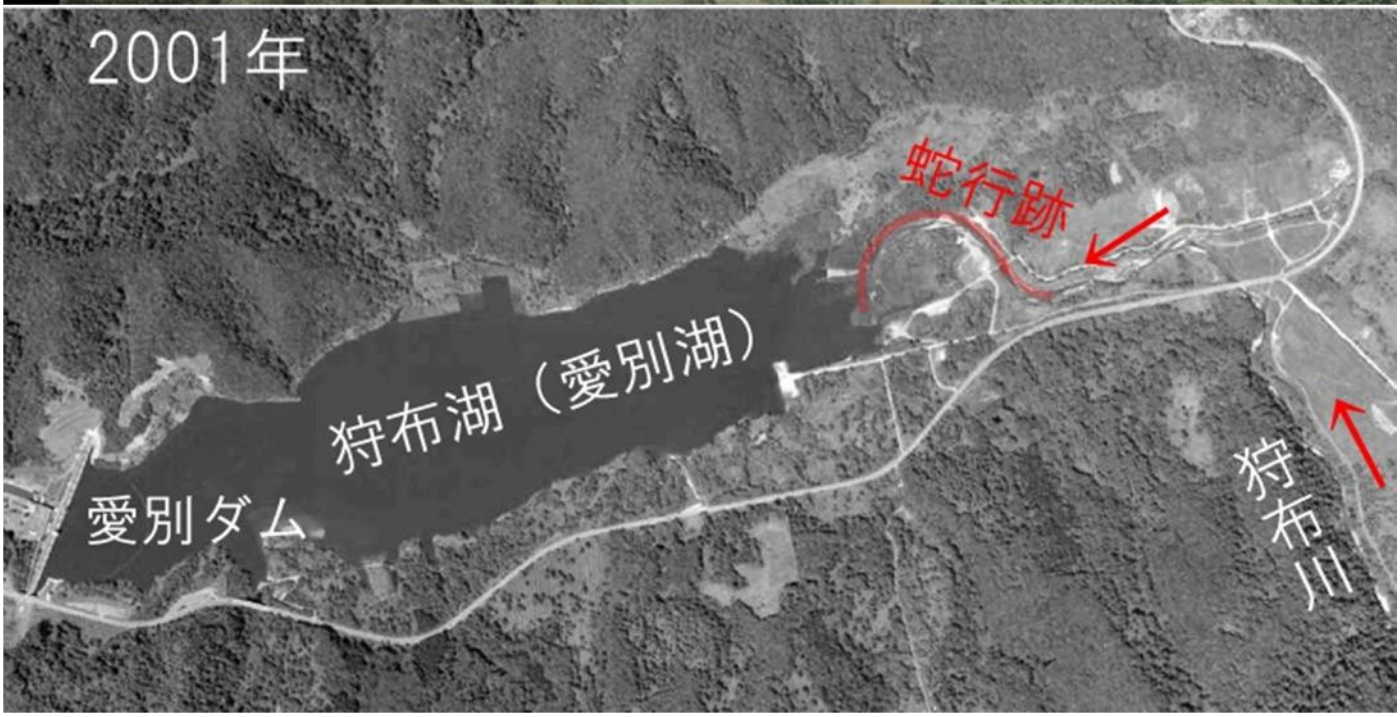


（国土地理院提供・作図；C.Tanaka）＊2 頁目に拡大

今回のアイヌ語地名の探究は、単なる地理学的な考察だけでなく、その土地の自然、歴史など、さまざまなことで、大変勉強になった。「興味を持ったことを徹底的に調べる」ことの大切さも学んだように思う。

「現在の石狩々布川」蛇行は少ないが、清流である。

1977年
UAg 1030 151,73
石狩々布川
石狩々布川


2001年
蛇行跡
狩布湖（愛別湖）
愛別ダム
狩布川